

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 地理に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。地理的な見方や考え方を働かせて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を求める。『地理総合、地理探究』では、「地理総合」で学習したことで、それを基に「地理探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては、地域を様々なスケールから捉える問題や、地理的な諸事象に対して知識を基に推論したり、資料を基に検証したりする問題、系統地理と地誌の両分野を関連付けた問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領「地理総合」の「A 地図や地理情報システムで捉える現代社会」の「(1) 地図や地理情報システムと現代世界」、「B 国際理解と国際協力」の「(1) 生活文化の多様性と国際理解」「(2) 地球的課題と国際協力」にまたがる大問である。具体的には、穀物輸出を通して現代世界の結び付きを導入に、世界各地の料理からみる食生活の多様性、自然環境を背景とした穀物栽培の工夫について確認した上で、穀物等の栽培に関わる地球的課題についての実態や要因を考察することを狙いとしている。問1は、三大穀物の生産量に占める輸出量の割合と主な輸出地域の判読により、物流の実態を大観する思考力を、問2は、コメ料理で用いられる食材の生育環境を基に、食生活と地理的環境の関連について考察する力を、問3は、アフリカの気候帯の分布と利水に関わる事実的知識を基に、地理的環境を踏まえた作物と栽培方法とを結び付けて考察する力を、問4は、三大穀物と大豆の収量の変化と、その要因についての関連について考察する力を問うた。

第2問 学習指導要領「地理総合」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」における「(2) 生活圏の調査と地域の展望」に関する大問である。愛媛県今治市における「産業の成立及び交通インフラの変化と地域の発展」に関する探究学習の場面を想定し、地理的技能や思考力を多面的に測る問題として作成した。問1は、地形図や現地の写真を通して地域の自然的特色を考察する問題、問2は、交通インフラの整備による四国地方への影響を考察する問題とした。問3は、愛媛県内における今治市の産業等の相対的・地域的特色を考察する問題、問4は、地域の理解を深めるために、今治市のタオル製造業を事例として、地場産業の成立や変化の特徴について検討する問題とした。また、『地理総合、地理探究』との共通問題である。

第3問 学習指導要領「地理総合」の「C 持続可能な地域づくりと私たち」における「(1) 自然環境と防災」に関する大問である。「日本の自然環境と人の活動との関係を理解し、自然災害の特徴を捉えて、防災につなげることを」狙いとしている。問1と問2は、日本の自然環境をテーマとして、地形図・陰影起伏図と水系から、異なるスケールの地形を読み取り、土地・水の利用、自然災害との関係を問うた。問3と問4は、自然災害と防災をテーマとして、過去の地震災害と二次的な火災、防災施設の用途について問うた。単純な知識を問うのではなく、地理的な見方・考え方を基に様々な形式のデータを分析し、地域的特色と自然災害を多角的に考察させる作業を小問中に含めた。

第4問 学習指導要領「地理総合」の「B 国際理解と国際協力」における「(1) 生活文化の多様性と国際理解」に関する大問である。世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文

化がどのように地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもち、地理的環境の変化によって変容しているかを中核的な発問としている。問1は、世界各地域の自然環境の特徴が、地域の農業活動や農産物、食文化にどのような影響を与え、地域特有の食文化の形成にどのような影響を及ぼしたか考察する力、問2は、無形文化遺産を事例に、異なる自然・社会環境下において各地の文化が発達してきたことや、それぞれの文化の特徴により衰退の背景にも地域差があることを推察する思考力、問3は、近年の気候変動や林業、農業、生活様式などの変化が熱帯林、サバナ、マングローブ、針葉樹林などに与えた影響を考察する力、問4は、ラテンアメリカやアフリカにおける植民地統治など歴史的背景が地域社会に与えた影響や地理的近接性などが、留学先にどのような影響を与えたかを推察する思考力を問うた。大問全体の難易度は高く、特に問3は高かった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見についての見解

第1問 大問全体としては図表、写真などを用いながら基本的な思考力を問う設問で構成されており、難易度も適正であると考ええる。また、多様な資料を基に、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせる問題として評価された。問1は、「地理総合」の冒頭の問いとして、必修教科目として最低限身に付けるべき知識の水準についてのメッセージ性を有しているとの評価を得た。問2についての直接の指摘はなかったが、大問の総評に示された「身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせ」た問いとして受け取られる。また、問4は、ここで用いた図が経年変化から特徴を考察することがきる図として、学習素材としての価値も高いと評された。一方、問3については、個別的知識を必要とし、求められる地理的な知識の水準について留意が必要と指摘された。テーマ型の大問として、設問間で学習内容のつながりを感じることが出来る出題となっており、実際の授業場面を想定した工夫がなされているとの評価を受けているが、全体的に知識に負う部分が多いという指摘も受けている。今後も高等学校における実際の授業の流れを意識した作問を心掛けたい。

第2問 大問全体としては図表、写真などを用いながら思考力を問う設問で構成されており、難易度的にも適正であると考ええる。また、自然環境と土地利用、他地域との結び付きや経済・社会的変化をテーマとした探究的な学習過程により構成されており、難易度・分量は標準的で解答時間も適切との評価を得た。問1は、写真の視認性を向上させる工夫が必要と指摘されたが、写真にみられる自然的特徴や構造物を地形図の読図と組み合わせれば難易度はやや易と評価された。問2は、四国各県の位置と交通環境の変化を組み合わせ思考する力が必要であり、難易度はやや高いものの、共通テストの特色が表れた良問と評価された。問3は、複数のデータを地域条件と関連させながら、地理的な見方や考え方を問う内容で良問と評価された。問4は、知識的に易問になりやすいと指摘されたが、地域の産業に関する複数のデータを読み解いて相応しい内容の組合せを選ぶ方法は、共通テストらしい問題と評価された。地域の魅力や課題を様々な視点やスケールから発見し、一般化していくプロセスに沿った作問を今後も目指したい。

第3問 大問全体としては図表、写真などを用いながら多面的・多角的に思考力を問う設問で構成されており、難易度的にも適正であると考ええる。また、地形図・陰影起伏図、主題図、景観写真など、地理学習で用いられる資料の読み取りを通じて、地理的技能や思考力を問う問題から構成され、単純な知識を問うだけでなく、様々な形式のデータを多面的・多角的に考察させていた点が評価され、大問全体の難易度も適切と評価された。一方、災害との関わりに重点が傾きすぎており、地域有利の設問があるという改善意見が出された。問1は、定番の形式で、平

易であるが、典型的な小問として学習場面で活かせるというコメントが出された。一方、正解の選択肢について改善を求める意見が出されたことから、適切な選択肢を検討したい。問2は、標準的な難易度、問3は、やや易しいと評価され、いずれも地理的思考力、判断力が問われる良問とされた。一方、改善意見にあったように、適切な用語の使用に心掛けたい。問4は、難易度について評価が大きく異なった。防災施設の写真から用途を想像することは難しい、居住地域により有利・不利が生じるという意見が出されたことから、受験者にとってなじみがあり、より汎用的で視認性が高い写真を使用するようにしたい。今後も、地理学習で用いられる資料の読み取りを通じて地理的技能や思考力を問うことに留意し、人と自然との関わりについて考察させる小問と、災害や防災の小問を、大問全体でバランスよく出題するように心掛けたい。

第4問 大問全体としては図表、写真などを用いながら基本的な思考力を問う設問で構成されており、難易度的にも適正であると考ええる。また、多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する出題形式で適切であると評価された。問1は、気候が影響を与える農業と食文化についての問いで、テーマや問い方に第1問の問2との重なりが大きく、その点について改善を要すると指摘された。問2は、写真が小さく、表現されている内容を把握しにくいいため、受験者が戸惑わないような配慮が必要であると評価された。また、難易度は標準的であるものの、この問いが求める知識や、解答に至る思考・判断過程が地理的な見方・考え方を働かせるものなのかは疑問が残るとの指摘があった。問3は、マングローブ林の減少理由を判断する問いで、多くの教科書で扱われている内容であることから、難易度は低く、受験者が安心して取り組める問題であったと評価された。問4は、四つの国における留学生の出身地域を示した図を基に、他地域との地理的距離や歴史的背景を踏まえて、各国と諸地域とのつながりを考察する良問と評価された。今後は、大問全体のバランスを踏まえた出題を心がけるとともに、自他の文化の尊重や国際理解を図ることの重要性に関わる作問を検討したい。

4 ま と め

今後の問題作成に当たっての留意点として以下に記す。

- (1) 問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って、学習指導要領において育成することを旨とする資質・能力を測るための良問で構成されていると評価された。一方で、各設問の関連性が乏しく、個々の設問が独立したものになっていること、豊富な資料と組合せ選択の問いの多さなどにより、解答に多くの時間を要すると指摘された。各設問の有機的な関連性を意識するとともに、受験者への過度な負担とならないような、全体のバランスに配慮した作問を心がけたい。
- (2) 難易度については、全体的には適正な難易度であったとの評価を受けた。一方で、中学校の地理的分野や「地理総合」の内容では必ずしも取り扱わないであろう個別的知識を必要とする設問があることを指摘された。また、他教科・科目と比較しての得点分布や難易度、高得点の出しやすさなど、留意すべき点があることも指摘された。地理的な見方・考え方を働かせて正答を導くことができる問題としつつ、標準的な難易度の問題の作成を心がけたい。
- (3) 出題範囲については、大問によっては、特定の分野に偏っているとの指摘を受けたが、全体としては「地理総合」で扱う内容が万遍なく出題され、標準的な問いから挑戦的な問いまでバランスよく配置されているとの評価を受けた。社会的問題や地球的課題についての出題はみられたが、それらの解決につながることを意図している問題や、探究の方法に関する問題がみられないとの指摘を受けた。こうした指摘を踏まえ、高等学校における学習実態に即した程度や表現・形式に

留意しつつ、かつ近年の世界情勢や課題の探究を視野に入れた問題作成を心がけたい。

- (4) 全体として、高等学校教科担当教員・教育研究団体等からは、「知識・技能」「思考・判断」が重視された共通テストに相応しい標準的なレベルの問題であり、学習指導要領の趣旨に沿った問題作成であると評価された。写真や図表の視認性について、個別の問いでも指摘がなされたが、これは改善の余地がある。「主体的・対話的で深い学び」を伴う探究プロセスを重視する際に、図表、写真を提示する必要性は大いにあるが、その提示の仕方によって問題の水準を下げるのではないよう、心がけていきたい。